

会議議事録

会議名	2023年度第1回医療事務分野教育課程編成委員会
対象学科	医療秘書科・医療事務IT科・診療情報管理科
開催日時	2023年7月28日(金) 14:00~16:00
場所	本校4階404教室
出席者 (敬称略)	<p>①企業等委員：企業等委員：須貝和則(国立国際医療研究センター医事管理課長)、直井智之(東大和病院事務部長)、梅里良正(独立行政法人労働者健康安全機構顧問)、山室 靖(東京衛生アドベンチスト病院医事課課長)、町田洋治(東京都済生会中央病院事務次長代理) (計5名)</p> <p>②本校委員：川口拓也(校長)、村山由美(医療秘書科学科長)、川畑亮子(医療事務IT科・診療情報管理科学科長)、江崎侑子(診療情報管理科教員)、榊原幸之(事務局長)、(計6名)</p> <p>オブザーバー：前田律子(副校長)</p> <p>③事務局：土方雄太、土屋瑠美子</p> <p style="text-align: right;">(合計13名)</p>
欠席者	石澤雅子(医療秘書科副学科長)
配付資料	<p>資料1：2022年度第2回医療事務分野教育課程編成委員会議事録案、□資料2-1：2022年度重点目標と達成するための計画・方法(年度末点検)、資料2-2：2022年度第2回委員会以降の主な経過報告、資料2-3：2022年度就職状況報告、資料3：2023年度重点目標と達成するための計画・方法、□資料4：2024年度医療秘書科・医療事務IT科・診療情報管理科カリキュラム(案)、2023年度医療事務分野教育課程編成委員会名簿(当日配付)</p> <p>印刷物資料：2023年度講義要項(当日配付)、2024年度学校案内(当日配付)</p>
議長	村山学科長
議題等	<p>1. 事務局より今年度委員の確認(当日配付) 事務局・土方(新任)より今年度委員の確認及び紹介があった。</p> <p>2. 校長挨拶 川口校長より、4月から校長に就任した。今までは法人の理事長として外から教育課程編成委員会を見ていたが、先生方にご指導いただく立場となったので引き続きよろしくお願ひしたい。 専修学校は今、いろいろな選別が行われている。一つは、かつては1円も出ていなかった助成金が、僅かではあるが頂けるようになった。もう一つは、外国人人材(留学生)の卒業後の在留ビザが大学と同等に発行されるようになった。その条件として、質の保証を担保するため教育課程編成委員会を開催し、PDCAを回していくことが必要になる。88年目を迎える本校としては、そういった評価を全てかち取っていきたい、との挨拶が行われた。</p>

3. 前回委員会議事録の確認（資料 1）

事務局より前回議事録案について諮ったところ、訂正事項はなく、個人情報に留意し、原案どおり公開することが確認された。

4. 2022 年度第 2 回委員会以降の主な活動報告について

(1) 2022 年度年度末点検報告（重点目標と達成するための計画・方法について）（資料 2-1）

川口校長より資料 2-1 に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

(2) 2022 年度第 2 回委員会以降の主な経過（資料 2-2、2-3）

榑原事務局長より資料 2-2、2-3 に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

5. 2023 年度の重点目標と達成するための計画・方法について（資料 3）

川口校長より資料 3 に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

6. 2024 年度生カリキュラム編成等について（資料 4-1～4-3）

村山学科長、川畑学科

長より資料 4-1～4-3 に基づき各学科のカリキュラムについて説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

7. 次回日程、その他

事務局より、次回の委員会の日程及びテーマについて報告があり、日程は別途調整することです承された。

※ 次回のテーマ

①2023 年度学科運営の進捗報告

②2023 年度カリキュラムと教育の実施状況報告

③2024 年度カリキュラムと教育の進め方について

なお、次回から当日配付資料はパソコンで用意することが了承された。

以上

2023 年度第 1 回医療事務分野教育課程編成委員会の主な討議内容

4. 2022 年度第 2 回委員会以降の主な活動報告等について

(1) 2022 年度年度末点検報告（重点目標と達成するための計画・方法について）（資料 2-1）

○川口校長より、資料 2-1 に基づき以下の報告が行われた。

①昨年度は、コロナ禍で対面教育も実習も十分にできなかったが、学校が掲げているものは資格の取得だけではなく、対人的な面の能力向上がある。残念ながら昨年度は学生との関わりが弱かった点はあるが、今年度はかなりコロナ前に近い活動ができています。

②学生募集では、医療・福祉系分野の志願者が激減している。高校の進路の先生の中には、AI によって病院の仕事がなくなるという誤った指導をされているところもある。このような誤認識をなくするためには、1 校だけではなく全体的に動いていく必要がある。

③留学生の受入れが再開し、日本語学校の学生も増えているので、その人たちを取り込みたい。

(2) 2022 年度第 2 回委員会以降の主な経過（資料 2-2～資料 2-3）

○榊原事務局長より、資料 2-2、2-3 に基づき以下の報告が行われた。

就職活動は非常に良好で、本年度もさらに好調な状況が続いている。

主な就職先は、ほぼ前年と同じ状況。国公立、大学病院等にも前年度並みの人数が就職している。

○主な質問・意見等

質問・意見等	回答等
<p>*診療情報管理科 診療情報管理科の退学者が多くなった原因はどう分析しているか。</p> <p>今は楽をしたいという学生と、もっと頑張りたいという学生に 2 極化しており、楽をしたいと思う学生に辞める人が多いのではないかと。</p>	<p>夏休み期間中に行った実習以降、方向転換したいという学生が増えた。</p> <p>管理士のレベルが思ったより高くて、リタイアしてしまう学生もいる。</p>
<p>*医療秘書科・医療事務 IT 科・診療情報管理科 メンタルに不調がある人が増えている。</p>	<p>2 年生になって模試や実習が増えてくると、メンタルに不調を来す学生がいる。 今はその割合が多くなっているように感じる。</p>
<p>ハラスメントの報告が上がってくる件数も多くなった。</p>	<p>先週、ドクターの当たりがきついといって相談に来た学生がいた。 今の 18 歳は Z 世代と言われ、守られてきたせいか権利の主張が強いかもしれない。</p>

<p>*診療情報管理科</p> <p>コミュニケーションを取るのが苦手という話があったが、病院勤務の薬剤師は、様々な職種の人たちと一緒に働けることに魅力を感じている。管理士にはそういう感じがないのかと思う。</p> <p>早めに職業観に気づけるイベントがたくさんあるとよい。</p> <p>今の若い子たちはやりがいを求めている。こつこつやるのが好きなのであれば、今後、例えばRPAのプログラミングをする力を養うのもよいし、人とのコミュニケーションが好きな人はそちらに行けばよい。多様な職種があることを病院側もPRができていないと思う。</p>	<p>医療事務よりも医師や多職種と交わることが多いことは伝えているが、管理士はデスクワークを黙々とやるというイメージが強い。</p> <p>年に数回、オープンキャンパスの中で卒業生に話をしてもらおう。やりがいが伝わってプラスになっている。</p> <p>専門学校にとって職業観の醸成は生命線だと思う。コロナ禍で一時期オンデマンド形式にしたが、今も対面の臨場感が薄れているところがあると思う。</p>
--	---

5. 2023年度の重点目標と達成するための計画・方法について（資料3）

○川口校長より、資料3に基づき以下の報告が行われた。

- ①コロナの5類移行により、止まっていた学校行事や学生の主体的な取組、教員との関わりが復活してきた。これまで以上に学生との接触機会を増やし、コミュニケーション力の向上や多職種連携に生かしていきたい。
- ②学生募集の面では、高校訪問やオープンキャンパスだけではなく、いろいろな情報発信の必要性を痛感している。まずはSNSによる情報発信を意識した活動をしている。高校の先生方にご支援いただく機会を設けたいと思っているので、協力をお願いしたい。
- ③ハイブリッド型教育については、セーフティネットとしてのオンライン教育は残していくが、今後は可能な限り対面での授業を目指している。

6. 2024年度生カリキュラム編成等について（資料4-1～4-3）

◎医療秘書科

○村山学科長より、資料4-1に基づき以下の説明が行われた。

①「社会人基礎C」について

・後期からスタートし、次の3つのオムニバス形式で進めていく。

「学びとは」「お金の勉強会」→校長と外部講師を招いて勉強会を開催する。

「看護師とは」「患者中心の連携を考える」→本校には看護科があるので、看護師から具体的な連携の話

をいただき、チーム医療のイメージづけをしていく。

「女性のライフイベントとキャリア」→自分の仕事を通して磨いていくという心構えを育てるため、医療機関で10年程度働いている卒業生を招いて5回分の授業をする。

②「医師事務作業補助概論」について

・従来、医師事務コースを選択した学生だけが学んでいたものを全てのコースに拡大した。

③「医療業界研究ゼミ」について

・今年の後期からスタートする。選択制で、目指している資格が全て取れている学生がさらに学び残しがないように選んでもらう内容になっている。グループで課題を見つけ、パワーポイント資料を作成し、発表する。次年度は学会発表も視野に入れた内容で進めたい。

④「美容医療コース」について

・美容外科への見学や現場の先生の講義など、変化に富んだ授業で、その都度レポート提出を義務づけている。

◎医療事務 I T 科

○川畑学科長より、資料 4-2 に基づき以下の説明が行われた。

・大きな変更はない。

・「医学用語」は、診療情報管理科への転科も視野に入れ、1年次から管理士を目指す学生と同じメニューで学んでいるが、こまの調整の関係で単位数が増えている。

・「アプリケーション基礎演習」は、2～3年前の卒業生から、この演習を通して資格取得やタイピングの練習をしたことが役立っているとの声を聞いている。

・ITパスポートの取得に力を入れ、1年生の前・後期、2年生の前期にわたって勉強して受検する流れとした、

・「医療情報基礎知識」は2年生からスタートするが、1年生のときからITパスポートを勉強していることもあり、抵抗なく授業に取り組んでいる。

◎診療情報管理科

○川畑学科長より、資料 4-3 に基づき以下の説明が行われた。

・IT科同様、「医学用語」の時間数を増やしたのみで、大きな変更はない。

・「がん登録演習」は、がん登録初級者の資格取得を目指し、がんセンターの先生に来ていただき取り組んでいる。

・「カルテ読解」「医学用語」は苦手とする学生が多いので、何度も見られる教材を作成してオンデマンドの授業を行っている。

・「医療情報技師概論」は2年生から学ぶ。医療情報技師も学生が取得するのは難しい資格だが、部分合格ができれば就職後につながるの、引き続きサポートしていきたい。

○主な質問・意見等

質問・意見等	回答等
*診療情報管理科 医療業界ではRPAの売り込みが激しいが、授業でやらないのか。ITパスポートの成果が出るようになれば、RPAもできる。	最近の学生はスマホで何でもできるので、パソコンができなくなっている。タイピングから始まり、Word、Excel、Accessだけで3年間が終わってしまう。

実際にRPAが組める人はどのくらいいるのか。

JCIという認証検定でも、データを観察してリスクの原因を分析しなければならない。パソコンができないと何もできない。

***医療秘書科、医療事務IT科、診療情報管理科**

先日のホスピタルショーのセッションで、スマホのLINEを活用した事例が紹介されていた。実用的なものを作ることで興味を持つのではないか。

AIによって消える仕事はRPA等で代行できる分野で、データの分析、人とのコミュニケーション、サービス、国際化の部分は残る。医療秘書科の名称も含めて、コンセプトを明確に打ち出し、それを学生本人と親が正しく捉えられるかが大事だと思う。

医療サービス科なのかもしれない。

***医療秘書科**

そこがカリキュラムの中で明確に出ているほうがよいのではないか。

***全体**

学校の名称を変えることも検討するということだが、その辺との兼ね合いもあるのか。

基本的にIT室の人以外はできる人がいない。

素養のある学生がたまにいる。まずは興味を持ってもらえるよう工夫をしたい。

パソコンにプラスしてLINEなどのツール等も使い、学生が興味を持って取り組めるよう、自動化についてももう少し考えていきたい。

医療秘書科に入る学生は、おもてなしが好きとか、対面で人の役に立ちたいという意思を持っている人が多い。

人とコミュニケーションを取る科目を他の学科より多く配置している。

感じのよい対応を大切にして、秘書的な役割を強化するための科目を配置している。

ANA総研の方に講師として来てもらい、接遇の授業を行っている。

今はコース設定だが、今後共通科目に入れて、サービスの要素を持った学生に育てていくことも考えられる。

医療秘書科ができたのは50年前で、そこがポータルになって病院事務系の学科が派生してきた。今でも高校の教員からは医療秘書科＝早稲田速記として認知されており、学科名を変えることにリスクもある。校名も同じで、病院の人事や高校からも「早稲田速記さん」で認知されているので手をつけ難いところもある。

患者が減ってきているので、遅かれ早かれ多くの病院で国際的な動きが活発になる。外国人に対しては、看護師よりもサービスがきちんとできる人がファーストタッチするという形に変わらと思う。国際化のニーズへの対応は避けて通れない。

民間病院でも以前ほど急性期の患者が集まらなくなった。うちも国際化プロジェクトを作って、英語表記を進めている。

がん登録の技術は知っているが、データを集計することもなく、ただ登録するという業務を繰り返しているだけの人が多い。何のためにやるのか、それをどう使うのかを実例を含めてきちんと教育していただくとよいと思う。

***医療秘書科、医療事務 IT 科、診療情報管理科**

本校は看護科や介護福祉科もあるが、他学科とのつながりはあるのか。

看護師は自分の将来像をある程度考えている人が多い。そういう同世代の学生の生き方を知ることによって、メンタル面の強化やモチベーションの維持につながられるのではないかと。

がん登録は難易度が高く、どうしても登録作業を詰め込みがちになる。がん登録のデータを2次的に生かしている例を見せていこうと思う。

医療秘書科では、車椅子の授業のときに介護福祉科の教員に入ってもらい、介護の仕方や注意点を講義してもらうことを数年続けている。

今回、スポーツサークルが立ち上がり、卓球をやった。そこで看護科の学生と管理科の学生が交流し、実習の回数などの話をしていたが、お互いの仕事を知ることは大事なので、そのような機会を増やしたいと思う。

今年、看護科と介護福祉科が初めて共同授業をする。医療的アプローチと生活面のアプローチを学生同士でやってみることになっているので、うまく広がれば面白いと思う。

以上